



愛知陸協広報

第6号

19年6月28日発行

愛知陸上競技協会

〒460-0012 名古屋市中区千代田二丁目19番16号千代田ビル7F

電話 (052) 249-4363 ファックス (052) 249-4366

e-mail ark@marble.ocn.jp

ホームページ: url <http://goldjaic.org/jaic/member/aichi/>

「元気な愛知」の一角を担おう—19年度を迎えて

愛知陸上競技協会会長 梅村 清弘

愛知陸協の19年度が、4月半ばに開催した国体選手選考強化普及陸上競技会から例年通り力強く動き出しました。来年の北京オリンピックを前に、世界 No.1 アスリートを決める今夏の世界陸上大阪大会には、室伏広治選手（男子ハンマー投、ミズノ）をはじめ、内藤真人選手（男子110mH、同）、室伏由佳選手（女子円盤投、同）、中田有紀選手（女子7種、日本保育サービス）ら愛知のアスリートの活躍に期待が集まります。愛知陸協も「元気な愛知」の一角を担う1年にすべく、会員の皆さまのご協力をお願い申し上げます。

「愛知陸協広報」は、創立70年を超える歴史と伝統を有する愛知陸協が昨年1月、創刊号を刊行して、今号で6号を迎えました。定期的に刊行していくことは大変なことで、編集、制作に当たられた編集委員会のご労苦に心から敬意を表します。この1年有余、広報誌を通して会員は相互に情報を共有し、競技会運営や選手の育成強化など、さまざまな問題でも多くのものを得られたことと思います。愛知陸協飛躍に向け、広報誌がさらに大きな役割を果たしていくよう願っております。

愛知陸協は昨年、瑞穂陸上競技場で大型映像の導入をはじめ、新たに中京女子大レディーズ陸上大会と、愛知万博の理念の継承を願って万博会場で市町村対抗駅伝大会の2大会を立ち上げました。今年はこの大会をさらに発展させ、本協会が最重要目標に掲げている国体及び都道府県対抗男女駅伝大会の成績向上につなげていかねばなりません。全日本中学選手権大会の1500mで17、18年度に連続優勝した鈴木亜由子選手（豊城中→時習館高）に続く選手が輩出するよう、会員の皆さまのご指導、ご協力をお願いする次第です。

愛知県は活発な経済活動で活力に満ち、「元気な愛知」と全国から羨望の眼が向けられています。フィギュアスケートも「強い愛知」に、世界から大きな関心が寄せられています。「強い愛知」に陸上競技が加わることで、愛知の活力は一層高まり、さらに元気になるでしょう。小学生を中心に陸上人口を確保・増強し、層の厚い「陸上王国愛知」をめざしてみんなで汗をかこうではありませんか。



平成19年度を迎えて

理事長 國分 一郎

①施設用器具・審判・選手強化・年誌資料広報の4委員会の委員長が新しい方に代わりました。委員長は従来の委員会業務を早く理解し、新しい運営構想を持って、強い意志で取り組んでください。また各委員会の委員の方は、委員長をもり立ててください。②各委員会は、新しい委員を少しずつ加え惰性に流されないようにしてください。また発想力やコミュニケーション力等の資質の高い人を加え、後継者の養成を考えてください。③5月22日に前年度の決算の監査を受けました。3つの部会・5事業の決算が遅れ、また間違いがあり、このような時期になりました。公金という感覚を持って、19年度は確実にお願いします。④今年の国民体育大会は秋田です。愛知陸協は、決められた監督以外に多くのコーチやトレーナーを派遣します。この人達の旅費・宿泊費・日当・食費は、全額愛知陸協負担です。県から成績割の強化費がつくよう総合8位以内に絶対入ってください。得点を取ることの厳しさを知るのは、選手団のコーチです。コーチの方々は得点の取れる競技者を是非育ててください。⑤コーチの方々におかれましては、少しずつ新しい人を加え、後継者養成を図るとともに、取り組みがマンネリ化しないように心がけてください。⑥平成18年度の都道府県対抗男子駅伝では一般（成人）・高校生ともに実力を発揮できなかった人がいました。コンディショニングは難しいものです。この駅伝に対してベストの体調で臨んでください。⑦都道府県対抗女子駅伝にはコーチに毎年女性を1名ずつ加え、数年後には、監督・コーチを全て女性にするような計画を立ててほしいと思います。女性の登用は、梅村会長の希望でもあります。現に優勝県や上位県にそのようなチームがあります。平成18年度の成績は、強力な実業団チームが無い中で10位ですから、よく頑張ったと思います。⑧今年の8月末には、大阪で第11回の世界陸上競技選手権大会が開催されます。本年の全国高校陸上及び全日本中学陸上で活躍した生徒45名を1泊2日の予定で観戦に連れて行きます。期日は男子ハンマー投の行われる8月27日と28日の午前です。切符も到着していますし、宿舎及びバスの予約も終わっています。審判出席日数の多い審判員を対象に、同様のことを考えています。

支 部 報 告

名古屋支部

4月7・8日の名古屋支部陸上競技会をもって、19年度のトラックシーズンが始まりました。冬期練習を積んだ多くの競技者が出場し、活況を呈しました。中でも目を引いたのが、多くの中学生の出場です。今までにもありましたが、今年のようなのは初めてです。このことが中学以外の選手に新たな刺激となれば、名古屋支部のレベルアップにつながっていくと期待しています。また、昨年から導入した大会申込のコンピュータ処理も、2年目となり順調に進みました。

さて、19年度より団体登録の人数が10名から5名に改正され、これにより新規登録する団体が増え、4月末の段階で団体数・人数共に18年度を上回りました。このことも名古屋支部にとって大変うれしいことで、この中から有望な選手が多く輩出されることを期待します。

こうした4月からの一連の動きを見てみますと、前述の中学生といい、登録団体のことといい、世界陸上、北京五輪出場を目指す愛知の有力選手に続けとばかり、少し大げさかもしれませんが、新しい息吹を感じます。19年度のシーズンも始まったばかり。競技会も多くあります。選手諸君の健闘を期待します。

・今後の予定(8月～10月)

- ①第3回名古屋支部陸上競技会(8/25 知多)
- ②名古屋支部中学新人(9/22・29 瑞穂・知多)
- ③名古屋支部選手権(10/20・21 瑞穂・瑞穂北)

(水野 隆夫)

尾張支部

日本陸連の役員定年制導入に伴い、愛知陸協にも同規約が適用された。同時に役員の改選の年に重なり、4年間尽力された高田輝男前支部長がご勇退された。

私が後任の重責を担うことになったが、高田前支部長のような、冷静で緻密かつ堅実な実行力には到底及ばず、不安に満ちたスタートとなった。現在、当支部の最大の関心事は県営一宮総合運動場・陸上競技場が、いつ全天候型競技場に改修されるのかということである。平成3年に始まった第1回目の陳情から15年間にも及んだ粘り強い陳情活動が遂に結実しようとしている。

平成18年5月14日、県教育委員会スポーツ課の担当者から「平成21年4月までに全天候型陸上競技場を造ります」という嬉しい回答を正式にいただくことができた。さらに競技運営上必要な建物、放送室なども造っていただけるということで、大変ありがたく思っている。

愛知陸上競技協会の梅村会長をはじめ高田前支部長、地域の多くの方々からも格別なご支援、ご協力をいただき、心から感謝している。今後は一日も早い完成に向けて、細かい詰めの作業を県の間で進めていくことになっている。また、完成した競技場の施設・設備を使いこなせる審判員養成もしなければならない。使用する側の我々が使い易い、また、競技者の皆さんが競技し易い競技場づくりを念頭に頑張りたい。これからも皆さまのご支援、ご指導、ご協力をお願いするしだいである。

6月2日(土)、3日(日)に開催された県選の支部予選会には、過去に例を見ないほど多くの審判員の方々にご出席いただき、うれしく思った。今後も多くの方々にご出席いただき、大会運営が順調に実施できることを期待している。

(小椋 征弘)

西三河支部

本年、陸協役員の改選に当り、8年にわたり西三河支部長を務められた鶴田政之先生が、陸連の規約に基づく定年ということでご勇退になりました。後任として支部長をお受けする事となりましたが、非力な自分を思うとき不安が渦巻く今の心境です。

鶴田前支部長の言動ににじみ出ていた「何事も前向きに和をもって対処する」心構えを、支部の気風に受け継いで行きたいと思えます。もとより西三河支部は、一般、高校から小中学校に至るまで、大変仲のよい人たちの集まりですから、危惧する事ではないと思えますが…。この関係の良さが多くの優秀な選手を育て、支部の運営や競技会の開催等を円滑に進めてきているのだと思えます。

ただ、いつも順風満帆な時ばかりとはいえ、あえて気掛かりな点を挙げるとすれば、中学校の大会で審判員が不足する状況が見られる事です。中学校の場合、競技歴や指導経験の有無等を考慮して部活動顧問を決める事は少ないのが実情で、異動をする度に担当の種目が替わる事も、珍しい事ではないといえます。したがって、顧問の中には初めて陸上競技に関わるという人が意外に多くおられます。このような方々に一日でも早く陸上競技に関心を持ってもらえるように、指導の面白さ、楽しさを感じてもらえるようなよい手立てがないものか、支部を挙げて知恵を出し合う好機だと思います。

中学校という広い土壌をうまく耕す事で、中学生の競技人口の一層の増加を図り、顧問の皆さんが積極的に競技会にも審判員としてお手伝いいただけるようになれば、底辺の拡充にもつながり、西三河支部の活動に一段と弾みがつくものと思えます。

(山内 満)

東三河支部

平成19年度の陸上競技会のスケジュールも決定し、4/14(土)・15(日)の豊橋リレーカーニバル兼東三記録会を皮切りに、4/21(土)の全三河長距離クラス別記録会(豊橋)に多数の選手が参加して盛大に行なわれ、好記録が続出した。

4/28(土)の蒲郡リレーカーニバルに引き続き、インターハイ支部予選会が5/3(木)・4(金)に豊橋で行なわれ、インターハイをみざす選手が、新一年生を迎え、走跳投に熱戦を繰り上げた。

話題の新一年生の優勝者

(男子) 小久保翔太(110H)、小島成稔(棒高跳)、遠藤晃敬(4×400R)

(女子) 鈴木亜由子(800、1500) グラティス・ワイリム(3000)、加藤博子(砲丸、円盤)

5/5(土)に東三小中学生陸上、5/12(土)に東三小学生リレーが豊橋で開催された。

この後は、県選手権東三予選会が、6/9(土)・10(日)

豊橋で開催された。競技会終了後には、東三陸協の総会が行なわれた。

本年度の特筆すべき事項として8/25(土)に平成19年度全国小学生陸上教室全国9ヶ所開催が、豊橋会場に決定した。詳細については、後日発表される。

本年度から3ヶ年計画で、東三陸協の強化策の一つに選手育成の原点は小学生からということで、森下田嘉治、石場治、安藤昌男氏等によって、下記3点が進められている。

- (1) 東三河の各市町に於ける小中学生陸上教室の充実(指導者の育成、クラブ員の募集、指導者組織の活用…)
- (2) 競技会、指導会の開催

(東三小中学生陸上、東三小学生リレー大会、東三小学生選手権大会、種目別記録会、指導会など競技場の活用)

- (3) 第一回豊橋市内小学校対抗駅伝大会の開催

各小学校の校内マラソン、長距離走大会、耐寒訓練の集大成行事として、子供達に駅伝競走大会の意義を明確にし、ベストを尽くす走りの中で、子供達が変わり、学校が変わることを期待する。

陸上教室の指導理念として、次のことを念頭において。<子供達に挨拶と礼儀作法、練習の厳しさを教える><甘えを取り除き、精神的に強く生きる心を育てる><父母指導者に対する感謝の気持を持たせる><お手伝いをし楽しい家庭作りの一員となる>これらを通して、陸上競技に専念できる環境を養おうと考えている。

(牧田 功)

専門委員会報告

総務委員会

登録について

公認の陸上競技会等に審判員・競技者として参加するには、愛知陸上競技協会に登録し日本陸上競技連盟の登録会員になることが必要です。愛知陸協に登録された審判員・競技者は、愛知陸協が日本陸連に会員として申請して初めてその資格を得ます。

- 1 一般登録は個人登録と団体登録(5人以上)があります。
- 2 大学生は地区学連を通じて愛知陸協に登録されます。愛知陸協に未登録の場合は、支部を含め愛知陸協主催の競技会へは参加できません。また、日本選手権はじめ他県で開催される競技への参加もできません。
- 3 中学生・高校生は学校単位で登録することが原則ですが、個人登録も受け付けています。
- 4 登録の締め切り日は、一般4月20日、高校5月20日、中学7月15日です。

上記以外も随時追加の受付をしていますが、陸連主催大会の資格審査に関係する登録は、下記の締め切り日を守ってください。

- (1) 日本選手権 5月10日
 - (2) 国体~12月の大会 7月10日
 - (3) 高校駅伝、都道府県男女駅伝など 10月20日
- 5 登録申請先及び連絡先

一般団体登録及び個人登録

名古屋	水野 隆夫	名東高校
尾張	原川 豪	美和高校

西三河	山村 晃泰	刈谷高校
東三河	兵藤 重二	章南中学

高校生登録

名古屋北	新美 準人	菊華高校
名古屋南	児玉 征久	瑞陵高校
尾張	浜子 記行	津島北高校
知多	成田 稔	東海南高校
西三河	加藤 高行	西尾高校
東三河	市川 工	国府高校

大学生登録

全 県	愛知陸上競技会
-----	---------

中学生登録

名古屋	久米 裕朗	港南中学
尾張	八代 政彦	大和南中学
西三河	細井 太郎	葵中学
東三河	小野田朋恵	青陵中学

(稲垣 裕)

競技・情報処理委員会

平成18年度までの運営の反省をふまえ、平成19年度においては、下記の2項目の変更を行ないました。

① 郵便振込による各競技会への参加料納入

昨年までは現金書留による納入方法をとっておりましたが、事務手続きの簡素化を図るために、変更させていただきました。振込の形をとることによって、現金を扱う際のトラブルを解消することができるといったメリットを考慮した結果です。振込用紙の形式には、考慮の余地があるようにも思われますので、振込む側の人たちが更に便利になるような改善点があれば、ご提案ください。

② タイムテーブルのインターネット配信

愛知陸協のホームページが本格的に運用されることにもなっており、今年度からは各競技会のタイムテーブルをホームページ上に掲載するようになりました。ホームページ上でご覧いただいたうえで、ダウンロードしてください。この点については、まだ周知徹底とまでいっていないようで、競技会の申込みの際に昨年までと同様に返信用封筒を入れておられる方があります。返信用封筒によるタイムテーブルの送付は廃止しましたので、よろしくご理解ください。

(大西 敏功)

施設・用器具委員会

先日5月11日に第1回施設・用器具委員会を開催しました。トラックシーズンスタート一ヶ月での各陸上競技場の様子を情報交換しました。多数の参加で活発に意見が出てあっという間に2時間が過ぎ、次回の課題を確認しました。

(主な検討内容)

- ①施設・用器具委員会の組織作りについて
- ②今後の会議日程について
- ③全国検定委員会議報告
 - ◎公認に関する事項の確認について

◎ルール修改正対応について

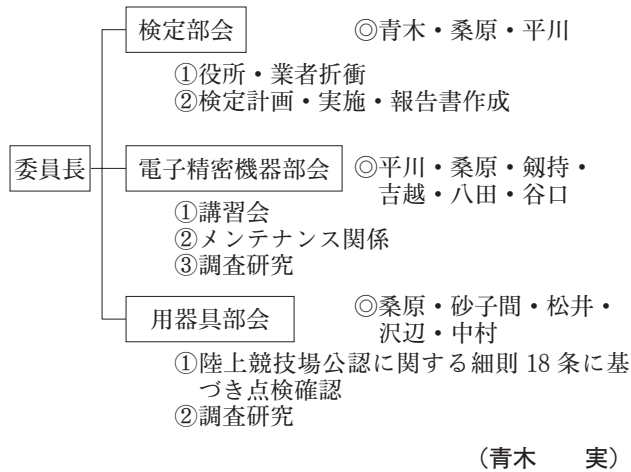
◎検定の流れ・スケジュールについて

④県営一宮陸上競技場の全天候型へ移行

2007 施設・用器具委員会

- 委員長 青木 実<日本陸連検定員>
- 副委員長 平川 貴之<日本陸連技術役員>
- 砂子間英明(名古屋) 松井 祐二(尾張)
- 沢辺 泉二(西三) 中村 昭宏(東三)
- 委員 鈴木 雄二 泰 聖喜 谷口 直土
- 鈴木 潔 延永 保二 三輪 栄治
- 小山田 武 江藤 照雄 南 康次郎
- 特別委員 篠原 喜秋 岡本 恒彦
- 桑原 義貴<日本陸連技術役員・自転車計測員>
- (競技場担当)
- <名古屋>桑原 義貴(瑞穂) 江藤 照雄(知多)
- 八田 定丸(半田)
- <尾張>松井 祐二(一宮)
- <西三>田嶋 利夫(岡崎) 太田 貢(安城)
- 沢辺 泉二(刈谷) 林 一哉(豊田)
- <東三>中村 昭宏(豊橋) 大竹 昇(蒲郡)
- 伊藤 朝一(田原)
- <大学>室伏 重信(中京大) 斎藤 良太(中京女子大)
- 筒井清二郎(愛教大)

組織図



審判委員会

日頃は、各競技会の審判業務にご協力いただき感謝しています。

平成 19 年度も各支部の競技会で幕を開けました。今年度は、8 月に大阪で世界陸上が開催されるに伴い、一部の競技会が例年より早くなり、そのしわ寄せが他の競技会にも及んでいます。特に、審判の皆様には今まで以上に協力をいただき、競技会を円滑に、さらに、よい記録が出るようにしていきたいと思ひます。

今年度も、例年の競技会が予定されていますが、東海中学総体が愛知県開催で、県中小体連を中心に準備を進めています。また、平成 20 年度に全国レディース陸上、平成 21 年度には全国マスターズ大会が予定されており、こちらも着々と準備が進められています。

ご多聞に漏れず、愛知の審判構成も高齢化が進んでおり、若い力を増やし、バランスの取れた編成を進めていかなければ

なりません。そのためにも、審判員の方々の後輩や教え子等に声をかけていただき、公認審判資格を取っていただくことを願っています。

重ねてお願いをします。一つは、審判調査はがきを必ず返送してください。都合がつかず欠席が多くてもかまいません。返信は現在多い支部で3分の2程、少ない支部では2分の1以下です。多くの費用がかかっていること、審判編成に苦慮している現状を理解してください。

二つ目は、審判員の服装です。学校の先生にラフな服装が多く目立ちます。せめて、県レベル以上は規定の服装で審判を行なってください。ブレザーやズボンの斡旋を望まれるのであれば、早々に斡旋したいと思います。服装は練習の指導の延長ではなく、あくまでも競技の中での審判を競技者にも意識させ、公正に、緊張感を持って行なわせないものです。

三つ目は、審判資格を持っている指導者が、スタンド下で指導する姿や、生徒が顧問を探し回り、結果報告や指導を受けている場面をよく見かけることです。顧問も審判をしながらであるのでしかたがありませんが、本部近くや他の競技に支障がないところで、短い時間で行なってほしいものです。

いろいろ苦言を呈しましたが、愛知の陸上競技発展には競技者育成だけでなく、正確な審判や、記録の出しやすい雰囲気作りのできる審判が必要です。是非、審判員の方々の力をお借りして、今年度も各種競技会が進められることを願っています。

(榊原 茂)

選手強化委員会

平成 19 年度愛知陸上競技協会理事会、評議委員会において水野久強化委員長のあとを受け、新強化委員長に任命されました。平成 17 年に国体男子監督、平成 18 年に総監督として強化に携わってきました。本陸上競技協会の強化委員会には普及部も含まれていることから、選手強化はもとより陸上の普及から組織運営に至るまで、多角的に取り組んでいきたいと思ひます。

昨年の国体報告で示したように、国体での競技成績は各都道府県陸協のシステムに大きく関わっていると考えられます。普及、育成、強化がシステムとして充分機能していない県は衰退し、機能している県は上昇の一途である現実があります。強化委員会の中に普及部が存在していますが、普及こそ強化の礎であります。一人の選手を県代表に仕上げる過程には幾多の指導者の手によるものであることを認識することが重要であります。相互育成の見地から強化部はそのイニシアティブを取ることが望まれます。従ってそれらを委ねられた強化委員会の責務は大きいものがあります。

本年度の国体は、秋田県で開催されます。一昨年の岡山では総合3位、昨年の兵庫は5位の成績でした。表彰の対象にはありませんが、男子は兵庫国体では第1位の得点を上げております。昨年は開催県の兵庫が圧倒的な力を発揮しましたが、本年度は昨年と種目変更がないことからチーム愛知は十分優勝を狙える位置にあると思ひています。

都道府県対抗駅伝では、男子は毎年優勝戦線に絡む健闘を見せています。実業団からの選手支援もあり、県民の期待に添うべく結果を常に求められています。本年度は男子監督に豊田紡織の亀鷹氏、女子監督には名城大学の米田氏

の就任が決定しています。両氏とも実業団、大学において全国的に著名な指導者であることから、愛知の代表チーム監督として申し分ない人材であります。中学、高校、大学、実業団と4つの輪を牽引していただけるものと確信しています。

少子化、指導者不足での中高の部活の減少、実業団陸上競技部の縮小等、社会構造の変化による陸上競技を取り巻く環境は厳しい状況にあります。強化普及的な面での取り組みはもとより一層活性化し強化委員会相互の連携を軸とし、より多くの人々が、陸上競技に関係していくような取組みを進めていくことが必要です。

いずれにしても、歴代の諸先輩方が築き上げてこられたものを尊重しながら、情熱と使命感、そして先見性をもって愛知陸上競技協会を発展させるための創意工夫に努め、皆様方のご協力をお願いするしだいです。

(北村 肇)

記録委員会

記録委員会は暦年で活動していますから、1月から新しい記録の業務がスタートしています。名岐駅伝、犬山ハーフマラソン、国際室内棒高跳、名古屋国際女子マラソン、中日豊橋マラソンと大きな大会を無事に終え、公認申請したのもつかの間、トラック&フィールドが4月1日の梅村学園記録会(中京大)でスタートしました。室伏由佳選手(ミズノ)が円盤投(58m00)で日本新記録を樹立(愛知陸協申請)し、中部実業団では58m62とさらに記録を塗り替え世界陸上B標準が間近になりました。静岡国際陸上では、有木健人選手(ハート&ハート)が棒高跳で5m40と愛知県タイ記録を跳んでいます。高校生の中にも好記録でスタートした競技者が多く、今年の愛知の陸上は例年になく各部門に頑張っている競技者が多く、記録委員一同記録処理に気合いが入っています。

業務として、愛知県内での年間130を超える競技会の記

録に関する全てを整理しています。また、大会記録の設定のある競技会については、日本記録、愛知県記録、大会記録を資料として競技委員会へ報告します。

競技会では、記録委員を中心に各種目の記録を確認し印刷配付、全種目を整理した1冊にまとめた記録集を、公認申請用等を含め数十部作成します。日本陸連への公認申請(訂正プログラム添付)、保存用の整理、専門誌への送付、10傑用資料の確認をしてひとつの競技会の処理が終わります。

また、記録証明書の提出が基本ですが、県外の競技会へ出場した競技者から報告のあった記録の確認、専門誌、インターネット等をチェックし記録の収集を図っています。

※2006年愛知陸上競技記録集の訂正

3頁・50頁 高校男子、八種競技(砲丸投の規格の変更による。)

(正) 5284点 大林太郎(明和) 愛知高校総体 瑞穂 06.5.21
(11.13 (0.5) -6m60 (0.5) -11.45-50.60:

15.95 (-0.2) -45.34-1.60-4.44.58)

(岡田 武彦)

女性委員会

本委員会は、発足して3年目を迎えます。本年度は、第4回愛知レディース陸上大会の運営と、来年10月に愛知で開催予定の第26回レディース陸上競技大会の準備を中心に活動をしていく予定です。

第4回愛知レディース陸上大会は、県ジュニアオリンピックとの同時開催を変更して、7月7日(土)県混成・県リレー大会と同時に開催します。この時期は、中・高生の期末考査と重なりますが、多数の参加を願っています。各女性委員は、大会の申込み受付・データ入力・プログラム編成会議などの内容を理解し、他の委員会と協力して仕事を行なえるようになりました。大会当日もスムーズな運営が出来るよう心がけていきます。

キッズアスリート・プロジェクト「夢の陸上キャラバン隊」来校

日本陸上界のトップ選手が子どもたちを指導する、キッズアスリート・プロジェクト「夢の陸上キャラバン隊」(日本陸上競技連盟主催)が、2月26日、豊橋市立小沢小学校(森下田嘉治校長 児童数189名)で開かれた。

この企画は、子どもたちの体力向上や陸上競技への関心を高める目的で実施され、東京都に次いで全国2回目の開催。同校の児童などが、トップアスリートによる各競技のデモンストレーションを間近で見たり、選手自らが考えたという各種目のレッスンを受けたりして、有意義な時間を過ごすことができた。

今回参加したのは、室伏由佳(ハンマー投・円盤投)、内藤真人、吉岡康典(110mハードル)、畑瀬聡(砲丸投)、中田有紀(七種競技)の5選手。デモンストレーションで、これらの選手が次々と力のこもった技を披露すると、参加した小学生たちは目をまん丸くし、「すごい」と大きな歓声を上げていた。

レッスンを受けたり、選手との対決に臨んだりした高学年の子どもからは、「体育では嫌いだった高跳びが、中田選手のおかげで好きになった」「トップ選手と隣のコースで走れるなんて、夢みたいでうれしい」などの声が聞かれ、興奮気味。見学していた1年生の子どもが、担任の教師に、「ぼくたちも、体育でハードルやってみたい!」とリクエストを出すなど、陸上競技への関心の高まりがうかがえた。(森下田嘉治)



円盤を手にしながら興味津津の子どもたちと室伏選手
(写真提供 中日新聞社)

第26回レディース陸上競技大会については、昨年に開催された第24回広島大会の視察を参考にして準備計画を考えています。広島大会は、この大会の為に改修をした県営の広島スタジアムに約500名が参加して開催されました。大会の前後および当日に、他の大会と日程が重なり、思った程参加者が集まりませんでした。大がかりな器具は使用せず、シンプルな方法での大会運営でした。愛知大会については、理事長、副理事長を始め女性委員や東海地域の女性委員長から次のような意見が出されています。①競技場使用料は、高額になるが瑞穂競技場で開催する。②地域的な利便性を考慮すると1000名近い参加者が見込まれ、国立競技場で開催していた程度の大会規模になるであろう。③全国大会にふさわしい運営方法をしたい。

5月中旬には、大会予算案を会計で再検討していただきました。そして第1回女性委員会を開催し、大会要項も再検討して陸連に再度申請書を提出しました。今後の準備計画の予定は次のとおりです。①審判委員長と協議し、審判編成のうち主任審判員を決定、7月から研修を開催する。②10月28日(日)開催の第25回広島大会を視察する。③実行委員を選出し、12月頃に実行委員会を立ち上げる。④財務委員長と協議し、200万～300万円を目標にし大会協賛金を集める。⑤施設・用器具委員長と協議し、瑞穂競技場と打ち合わせをする。施設や器具などの補修・補充の検討をし、その予算を計上する。

また女性委員会の中から準備委員として石田美知枝・外山みな子・山下ゆかり・本間順子・外山あゆみの5名を選出した。今後は、これらの委員が中心になり準備を進めていく予定です。

◎平成19・20年度委員

- 委員長 脇田 千鶴
- 副委員長 石田美知枝
- 委員 澤木三枝子 外山みな子 舟木 香織
- 山下ゆかり 大久保真理子 荒井 理恵
- 外山あゆみ 今村 京子 渡辺 尚巳
- 本間 順子 渋谷 直子 白井 公子
- 佐藤 悦子

(脇田 千鶴)

年誌資料・広報委員会

昨年1月に「愛知陸協広報創刊号」を発売してから、1年半が経ちます。今年の委員会としては、年4回の広報誌の発行を予定しています。皆さん方に少しでも読みやすい広報誌として、次の点に配慮し、お届けしようと考えています。

- 1 文字の大きさを1ポイント大きくする
- 2 特集記事や連載記事を組み入れる

◎19年度の広報誌7～9号編集計画(案)

号数	発行月	編集内容
「愛知陸協広報」7号	9	<ul style="list-style-type: none"> ・理事長のことば ・専門委員会報告 ・4支部の活動状況 ・関係団体の活動状況

		<ul style="list-style-type: none"> ・競技会報告(県高校総体) ・理事会等会議報告 ・競技会参戦及び観戦記(アジア選手権、世界陸上、全国高校総体、全日中他) ・慶弔報告(協会会長表彰他) ・連載「ホープさん」② ・その他(名岐駅伝いまむかし③、クラブ紹介①)
「愛知陸協広報」8号	12	<ul style="list-style-type: none"> ・理事長のことば ・専門委員会報告 ・4支部の活動状況 ・関係団体の活動状況 ・競技会報告 ・理事会等会議報告 ・競技会参戦及び観戦記(国体、全日本実業団、全日本大学駅伝他) ・慶弔報告(秩父宮章他) ・その他(名岐駅伝いまむかし④)
「愛知陸協広報」9号	3	<ul style="list-style-type: none"> ・理事長のことば ・専門委員会報告 ・4支部の活動報告 ・関係団体の活動報告 ・競技会報告 ・理事会等会議報告 ・競技会参戦及び観戦記(駅伝関係<全国高校、都道府県・マラソン他) ・慶弔報告(県体協他) ・連載「ホープさん」③ ・その他(名岐駅伝いまむかし⑤、クラブ紹介②)

◎平成19・20年度委員

- 委員長 外山 修
- 副委員長 大西 敏功
- 委員 新美 準人 野口 一昭 占部 輝之
- 大久保真理子 西垣 完彦 中尾 洋一
- 山本 三郎

(外山 修)

関係団体報告

小学生友の会

小学生友の会は、愛知県内の陸上競技選手の底辺拡大をねらいとし、20年以上にわたり、小学生の陸上競技の普及を行ってきました。昨年度も、県内で47のチーム、1093名の小学生が友の会に登録をしました。少子化が心配される中でも、この5年間は毎年1000名を越える登録者があり、小学生の県リレー大会・県選手権では、多くの応援の方々に瑞穂競技場のメインスタンドが埋め尽くされます。小学生の指導に携わるコーチの方々も、練習時間・場所の確保が難しい中で、熱心な指導をされる方が多いです。

今年度の全国小学生交流大会(7/28～/29)は、世界陸上の行なわれる大阪・長居陸上競技場で行なわれます。この全国交流大会の選考会を兼ねた県小学生リレー大会(6/16)には約750名のエントリーがあり、今年も熱戦が展開されました。

(大矢 新吾)

中体連

平成19年度中体連活動について

本年度も底辺拡大を念頭に置き、県全体のレベルアップを目標として活動していく予定です。一人でも多くの選手がステップアップすることを願っています。

1年間の成果をみる主な県大会以上の大会は、下記のとおりです。

県混成競技大会 7月8日(日) 瑞穂
 県中学選抜混成大会 7月14日(土) 知多
 全日本中学校通信陸上競技県大会 7月16日(月) 瑞穂
 県中学校総合体育大会陸上競技大会 7月29日(日) 瑞穂
 東海中学校総合体育大会陸上競技大会 8月11日(土) 瑞穂
 全日本中学校陸上競技選手権大会宮城大会

8月20日(月)～23(木) 宮城スタジアム
 県ジュニアオリンピック陸上競技大会 9月8日(土) 瑞穂
 ジュニアオリンピック競技大会

10月26日(金)～28日(日) 横浜日産スタジアム
 県中学校駅伝大会 11月17日(土) 豊田市運動公園
 全日本中学校駅伝大会 12月15日(土) 山口

大会以外にも、体力・技術力向上を目指し、本年度も各支部で練習会・陸上教室等が予定されている。

(秋田 明憲)

高体連

5月22日に全国高体連の理事会及び評議委員会が行なわれ、新聞やテレビのニュースにも取り上げられましたが、平成20年度から全国高校駅伝の最長区間(男女とも第1区)に外国人留学生を起用することができなくなりました。これは、ここ数年、全国の駅伝ファンの方々から、NHK、毎日新聞社、高体連事務局、京都の駅伝実行委員会などに苦情が殺到しており、全国高体連がいろいろ検討してきた結果、やっと20年度から実施というかたちで決定しました。

今年度の東海高校総体は、6月15・16・17日の3日間、静岡のエコパスタジアムで行なわれました。また全国高校総体は、8月2日～6日まで佐賀県で開催され、多くの愛知県選手が活躍することと思われませんが、県高校総体のスタートリストや結果等も含め、それぞれ、愛知県高体連のホームページ、静岡陸協のホームページ、全国高体連のホームページに掲載され、ご覧ください。

(大島 修)

マスターズ陸上

心豊かな長寿社会の実現への貢献役

愛知マスターズ陸上競技連盟は平成18年度の総会を、平成19年3月25日(日)に岡崎市竜美丘会館において開催しました。

今回の総会には10の議案が提出され、全ての議案は満場一致で原案どおり決定されました。平成19年度は役員改選年にあたるので、第11期(任期平成19年4月1日～平成21年3月31日)の役員選任議案が第8議案として提案され、19人の理事と2人の監事が承認されました。また、第10議案として第30回全日本マスターズ陸上競技選手権大会の刈谷会場から瑞穂会場への変更が提案され、提案どおり承認されました。

主な議決事項

<平成18年度事業報告>

総会1回 理事会6回 記録会4回 参加者延べ420人
 愛知マスターズ選手権1回 参加者196人
 全日本マスターズ駅伝(富山市)
 男子10位、女子6位 エルダー6位
 全国スポレク祭(鳥取市)
 9種目7人1位 その他リレー2種1位

<平成19年度事業計画>

総会1回 理事会 随時 記録会4回
 愛知マスターズ選手権1回
 全日本マスターズ駅伝代表選手派遣(滋賀県)
 全国スポレク祭代表選手派遣(青森県)

<平成19年度一般会計予算>

収支予算規模 2,807,000円(前年度比404,594円の増)

<愛知マスターズ陸上競技選手権大会会計予算>

収支予算規模 1,154,000円(前年度比45,000円の増)

<新役員(総会後の理事会で決定)>

名誉会長	梅村 清弘				
顧問	松下 巖司	野澤 正治			
参与	近藤 陽洲				
会長	千田 俊樹				
副会長	松本 幸人	永田 敏也			
理事長	佐野 昭二				
事務局長	四戸 光男				
支部長	名古屋 新美 信夫	尾張 佐藤 武夫			
	西三河 加藤 智久	東三河 杉山 茂生			
理事	小山田 武 金澤 満	川合 征朗			
	石野 すゑ 外山 修	谷澤 秀代			
	小島 登行 川上 恭子	飯田 俊行			
	宮崎 禄子				
監事	加藤 次男	鈴木 一郎			

(佐野 昭二)

競技会報告

第17回西田修平・高橋公一記念杯 国際室内棒高跳び競技大会

本大会は故西田さんの呼びかけにより、1991年に第1回大会が開催されました。この大会の趣旨は「日本及びアジアにおける棒高跳びの競技力を向上させよう」というものです。

第17回大会は2007年3月3日14時から中京大学豊田学舎大体育館で開催されました。男子はメキシコのLanaro(最高記録5m71)、アメリカのTakahashi(5m60)、中国の楊(5m40)、韓国の金(5m30)、中華台北の許(5m00)と、迎え打つ日本は木越(5m51)、柏木(5m30)、渡辺(5m20)と世界でも優秀なる選手8人、及び、女子は、中国の楊(4m40)、カナダのDockendo(4m31)、韓



みことな跳躍をみせた近藤高代選手(写真提供 中日新聞社)

国の雀(4m10)と、迎え打つ日本は錦織(4m36)、近藤(4m35)、前田(4m01)、我孫子(4m00)と世界でも優秀なる7人の選手で競われました。結果は下記のとおりです。

男子の部			女子の部		
順位	氏名	記録	順位	氏名	記録
1位	G. Lanaro	5.62 大会新	1位	楊 静	4.22
2位	柏木 俊介	5.12	2位	近藤 高代	4.12
3位	渡辺 翔	5.02	3位	崔 倫 嬉	4.02
4位	許 志 強	4.82	4位	我孫子智美	3.92
4位	金 度 均	4.82	5位	前田 朋子	3.82
6位	木越 清信	4.82	6位	—————	—————

尚この大会は、毎年3月の第1土曜日に行なわれ、世界各国の優秀な選手が一同に会し、技を競い合っています。多くの皆さまの応援を待っています。ちなみに入場料は無料です。

(田嶋 利夫)

会(日本陸連・中日新聞社主催)に、各地からマラソンランナーが集結。沿道の声援を受けながら、世界のトップランナーから市民ランナーまでが各自の目標にチャレンジした。招待選手18名(外国5名、国内8名)を含む222名が、名古屋の市街地を駆け抜けた。愛知県からの参加者のうち27人が完走。招待選手の大南敬美選手《トヨタ車体》は、復活の力走で3位に食い込んだ。また、一般参加の福安ひふみ選手《館俱樂部・知立市》が32位(県勢一般1位)と健闘した。

結果(1~10位)は次のとおりである。

1.	橋本 康子	千葉・セガサミー	2.28.49
2.	弘山 晴美	東京・資生堂	2.28.55
3.	大南 敬美	愛知・トヨタ車体	2.29.24
4.	大平 美樹	東京・三井住友海上	2.29.34
5.	ジュリア モンビ	ケニア・アルゼ AC	2.29.38
6.	岡本 治子	兵庫・ノーリツ	2.30.09
7.	真鍋 裕子	香川・四国電力	2.30.34
8.	奥永 美香	福岡・九電工	2.31.08
9.	下川 智子	宮崎・旭化成	2.31.37
10.	町田 祐子	宮城・日本ケミコン	2.33.50

(外山 修)

2007年名古屋国際女子マラソン

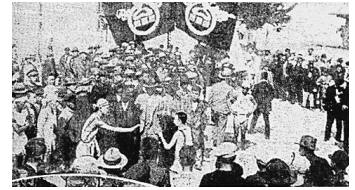
3月11日(日)、この名古屋の地で第28回を迎える大

名岐駅伝いまむかし②

14チームで大会はじまる

昭和5年(1930)10月4日付新愛知新聞に「名古屋岐阜間駅伝競走」という見出しで、大会要項が次のように発表された。

大会は10月19日。1チーム4名。コースは本社～岐阜県庁往復約50マイル。
選手資格は学生チーム、青年団チーム、倶楽部チームを問わず。10月14日迄に本社運動部に申し込むこと



①記念すべき第1回大会スタート直前の光景

大会要項発表から申し込み締切日まで10日程度という短期間ではあるが、大会前日の18日の紙面には「明日にせまった十里走破の大壮挙」の見出しで、愛知・岐阜・三重3県から29チーム120名の章駄天が参加してレースが展開されること、当日、参加選手は自チームのゼッケン番号をユニフォームの胸背部に縫付けて第一・二走者は午前9時までに本社及び第二中継所に、第三・四走者は午前11時までに各中継所の受付に申し出ること、また、大会役員として顧問にマラソン王といわれた日比野寛、決勝審判員として第9回オリンピックアムステルダム大会に出場した斎辰雄らの名前がみられる。

さて、大会当日の新聞には「名古屋岐阜間マラソン、いよいよ本日決行、四県下120名」の見出しの下、コースの略図や優勝旗・メダル写真が掲載されるとともにコースの往路である各所通過時間の予想が押切町-新川町-清洲町-下津-赤池-宮市-眞清田神社(第二中継所)-黒田-木曾川町-加納町-岐阜市-岐阜県庁毎に紹介され、沿道の読者や駅伝ファンの便を図っている。

大会には、結局、岐阜・愛知から青年団を中心に14チームが参加し〈注1〉、午前9時からの開会式の後、新愛知新聞社前の両側に並んだ応援団や観衆に見守られて、10時鳥井審判長の合図で顧問の日比野マラソン王と共にスタート(写真1)。71.5キロ〈注2〉の長丁場に4人の走者が沿道や中継所での応援を背に大接戦を展開し、午後2時56分岐阜・今尾町青年団の渡邊選手が応援自転車とともに本社前にゴール(写真2)。記念すべき第1回大会が大盛況裡に無事終了した。

大会の様子や結果は、翌20日の新愛知新聞紙上のスポーツ欄の半分近くのスペースを割いて大々的に報道され、優勝を含む入賞5チームと選外5チームのメンバー・記録(所要時間)・区間記録(5位まで)、さらに「彼らは斯く走った一抜こう抜かれまいの意気雄々しー駅伝マラソンの経過」を区間毎に詳細に紹介している。

参考までに入賞5チーム名と記録(所要時間)を付記する。

- ①岐阜・今尾町青年団 4.53.0 〈注3〉 ②名古屋・東白壁青年団 5.05.10 ③名古屋・八重青年団 5.08.02
④愛知・丹陽青年団 5.11.21 ⑤岐阜・根古地青年団 5.12.41

注1: 申し込みチーム29(10/18)が、14チームになった理由は不明。

注2: 新聞では、度々「50哩」と表記されているため「80キロ」を採用している資料等が少なくないが、第61回大会プログラムでは第10回大会までの距離を「71.5キロ」としている。確固たる資料は見当たらないが後者が妥当と思われる。

注3: 着時刻及びメンバー4人の区間記録の総計時間と一致しない。

本稿執筆にあたり、〈名古屋市立鶴舞中央図書館のマイクロフィルムに収録されている〉新愛知新聞(昭和5/10/4、同10/18、同10/19、同10/20)の記事・写真を転載・参考にした。(西垣 完彦)



②応援自転車とともにゴール



デッドヒートを繰りひろげる
橋本選手と弘山選手
(写真提供 中日新聞社)

第29回犬山ハーフマラソン

第29回犬山ハーフマラソン(愛知陸上競技協会、読売新聞社、犬山市主催)が好天に恵まれた2月25日(日)、犬山市と丹羽郡扶桑町をまたぐ公認コースで開催された。公認ハーフマラソンは男子363名、女子84名(招待を含む)が栄光のゴールを目指した。また同時開催の一般ハーフマラソン、10kmロードレースも同コースで行なわれ総勢約5000名が健脚を競った。

公認男子は、初出場の高嶺秀仁選手(法政大)が1時間3分07秒の大会新で制した。4位までが3分台というレベルの高いレースになった。また公認女子は、小黒久子選手(しまむら)が1時間13分04秒で初優勝、それぞれが月桂冠を戴冠した。

この大会はオーストラリアのメルボルンマラソンとの姉妹提携イベントでもあり、今回も男女の招待選手が来日、男子アンドリュー・ホワイトさん、女子カレン・ドリスさんが出場された。また今回のゲストとして世界陸上選手権のトラックとマラソンでメダリストとなった千葉真子さんが10kmでのスターターを務め、ハーフで完走された。

犬山ハーフマラソンは冬に別れを告げ、春を呼ぶ風物詩として地元に着し、多数のボランティアの方の協力によってスムーズな競技運営につながっている。来年は記念の30回大会である。どんなドラマが待っているかこれから大いに楽しみである。

第55回「日比野賞中日豊橋マラソン大会」 平成19年3月18日(日)

豊橋市陸上競技場を発着点に新城市石田を折り返す公認マラソンコースで行なわれた。(愛知陸上競技協会、中日新聞社主催)この日は、晴天のもと117人がスタートしたが冷たい風が吹き、完走者は69人だった。三菱自動車岡崎の江本悟司選手(35)が3連覇を果たした。これは47年ぶりで、史上2人目の快挙である。県勢は、10位以内に8人が入賞する大活躍であった。

ハーフマラソンには、ゲストランナーとして谷川真理さんが参加し、出場者とふれあいを深めた。両大会には、東海地方を中心に全国から計1065人が出場した。

フルマラソンの結果(20位まで)

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1 江本 悟司(三菱自動車岡崎) | 2.22.59 |
| 2 堀木 暢人(和歌山県庁) | 2.25.53 |
| 3 鈴木 隆正(TTランナーズ) | 2.28.15 |
| 4 原口 雄二(館倶楽部) | 2.30.27 |
| 5 松葉 広司(守山自衛隊) | 2.31.08 |
| 6 阿部 哲史(トーエネック) | 2.31.24 |
| 7 今田 敦士(関体協) | 2.31.51 |
| 8 石川 雅広(館倶楽部) | 2.33.21 |
| 9 本行 辰朗(TTランナーズ) | 2.33.34 |
| 10 末次 悠人(名大) | 2.34.20 |
| 11 本田 将浩(名大) | 12 新樫 達也(直鞍クラブ) |
| 13 瀬瀬 功(恵那体連) | 14 向山 直樹(山梨県庁) |
| 15 朝倉 辰男(館倶楽部) | 16 中川 浩昭(三重県庁AC) |
| 17 中垣 茂雄(恵那体連) | 18 島崎 真(トーエネック) |
| 19 田口 英樹(館倶楽部) | 20 下川 勝彦(トクスポーツクラブ) |
- (山本 三郎)

大会成績結果

- | | | | |
|------|----------------|---------|-----|
| 公認男子 | 1位 高嶺 秀仁(法政大) | 1.03.07 | 大会新 |
| | 2位 豊後 友章(駒澤大) | 1.03.38 | |
| | 3位 井上 貴博(拓殖大) | 1.03.39 | |
| 公認女子 | 1位 小黒 久子(しまむら) | 1.13.04 | |
| | 2位 佐竹 麗子(スターツ) | 1.14.19 | |
| | 3位 星野 芳美(eA静岡) | 1.14.30 | |
- (原川 豪)



額に汗して頑張る選手たち (写真提供 読売新聞社)



一斉にスタート (写真提供 中日新聞社)

平成19年度愛知県高校総体

平成19年5月25日(金)~27日(日)
瑞穂公園陸上競技場

5/25(金)・26(土)・27(日)の3日間にわたって開催。若きアスリートが走・跳・投の各種目で東海大会をめざして戦いをくり広げた。

平成19年度県高校総体優勝者一覧

[男子]

種目	記録	氏名	校名
100m	10.62	杉本 隆	岡崎城西
200m	21.95	鈴木 大介	名古屋大谷
400m	48.51	恩田 健人	惟 信
800m	1.57.89	栗津 良介	愛工大名電
1500m	4.02.60	栗津 良介	愛工大名電
5000m	14.52.78	早川 智浩	豊川工
110mH (1.067m)	14.98	加納浩一郎	中京大中京
400mH (0.914m)	54.06	山本 躍斗	岡崎城西
3000mSC	9.29.59	三方 勇輔	惟 信
5000mW	22.41.46	鈴木 基文	豊川工
4×100mR	42.02	村田・市川 加藤・平本	名古屋
4×400mR	3.19.85	中嶋・市橋 松下・牧野	時習館
走高跳	2.10	中村 明彦	岡崎城西
棒高跳	4.50	一ノ瀬 航	岡崎城西
走幅跳	7.15	西 航司	名古屋大谷
三段跳	14.48	平尾亮一郎	東 邦
砲丸投 (6.000kg)	13.89	土井 春亮	名城大附

円盤投 (1.500kg)	44.11	土井 春亮	名城大附
ハンマー投 (6.000kg)	52.98	瀧 友孝	名古屋
やり投 (0.800kg)	61.27	土田 基由	至学館
八種競技	5385点 (県高校新)	中村 明彦	岡崎城西

男子総合

優勝 岡崎城西 2位 名古屋 3位 中京大中京
トラックの部優勝 岡崎城西 2位 豊川工 3位 中京大中京
フィールドの部

優勝 名古屋 2位 中京大中京 3位 岡崎城西

[女子]

種目	記録	氏名	校名
100m	12.29	市川 華菜	岡崎城西
200m	25.58	太田 英里	瑞 陵
400m	57.04	柘植 早織	至学館
800m	2.14.02	鈴木亜由子	時習館
1500m	4.25.85 (大会新)	鈴木亜由子	時習館
3000m	9.32.49	W.G.Wairimu	豊 川
110mH (0.840m)	14.36	安藤由加里	至学館
400mH (0.762m)	62.73	石田 朋美	名城大附

クラブ紹介① 名城オールランナーズクラブ

名城オールランナーズクラブ(通称MARC)は昭和61年(1986年)の創設で、名城公園を練習場所に活動しているランナーの集まりです。メンバーの中には、名古屋国際女子マラソンや犬山ハーフマラソンなどにも出場するエリートランナーもいます。

会員数は3月末現在で92名います。会は、心身の健康保持とランニングレベルの向上を図るなどを目的にしています。会員やチャリティマラソンのボランティアは、常時募集しています。ただし非喫煙者に限ります。

「ナゴヤチャリティマラソンフェスティバル」

平成19年4月29日(日)に、名古屋市西区にある庄内緑地公園で「The 18th ナゴヤチャリティマラソンフェスティバル」が開催された。この大会は名城オールランナーズクラブ(MARC)と金鯉レーシングクラブが主催し、一流ランナーからハンディキャップランナーまでいっしょに参加し楽しめる大会である。今回は1,025人の参加があった。

大会の名前にも付いているように、参加者全員の手作りのチャリティを目的とし、走り終わったランナーの中にはボランティアを兼ねている人もいた。

カテゴリーは、フィジカリーチャレンジの部5km、10kmとマラソンの部5km、10kmがある。大会当日は夏日のような天候になり、選手たちは暑さとの戦いになった。幸い日射病や脱水症状になる選手も無く、大会は無事に終了した。大会終了後は抽選会もあり、ファミリーで楽しむ人たちが見られた。

チャリティの収益金は、昨年は交通事故等の遺児と家族への支援として使われたが、例年は車イスの贈呈に使われている。(大久保真理子)



完走めざしてがんばろう!

3000mW	14.29.94	福本 美奈	千 種
4×100mR	48.46	田村・越後藤・市川	岡崎城西
4×400mR	3.56.10	浜崎・安藤後藤・柘植	至学館
走高跳	1.67	河澄 真子	岡崎城西
走幅跳	5.31	八木 希	明 和
砲丸投 (4.000kg)	11.63	加藤 博子	豊川工
円盤投 (1.000kg)	38.36	加藤 千枝	至学館
やり投 (0.600kg)	42.49	國中美沙紀	至学館
七種競技	4301点	太田 穂	名城大附

女子総合

優勝 至学館	2位 岡崎城西	3位 瑞陵
トラックの部		
優勝 至学館	2位 瑞陵	3位 中京大中京
フィールドの部		
優勝 至学館	2位 豊川工	3位 岡崎城西 (新美 準人)

第19回愛知マスターズ陸上競技選手権大会

愛知マスターズ陸上競技連盟の最大のイベントでありますこの大会は、5月20日(日)にウェーブスタジアム刈谷(旧名称刈谷市総合運動公園多目的グラウンド)で開催しました。

今回で19回目を迎えますが、埼玉、福岡からの参加者もあり、過去最多の203人の参加者で競いました。年齢では、30歳から84歳までが参加しました。このほかに地元刈谷市内の小学生リレー(男女5チーム計10チーム)も併せて行ないました。また補助員として、科技高刈谷、ジェイテクト学園や地元中学校陸上部の協力を得ており、地域に密着した大会となっています。

大会当日は好天に恵まれましたが、やや風が強く記録的には日本記録1、県記録17、大会記録17で、やや低調気味に終わりました。(昨年が日本記録11、県記録17、大会記録31)

唯一日本記録を更新したのは、男子重量投(マスターズ陸上の特殊種目)で山田博嗣選手(豊田市)でした。自己の持つ日本記録(15m15)を大きく上回る16m44を出しました。山田選手は今年になって既に重量五種で日本記録を更新しています。今後の大会で、更に日本記録の更新が期待されます。このほかでは、加藤敦子選手(豊川市)が、2種目で県記録並びに大会記録を出した他、大会記録も1つを出すなどの大活躍でした。

結果(日本新・県新のみ)

男子60m

クラス	氏名	年齢	記録	順位	備考
M80	田中 憲光	80	11.70	1	県新
M40	渡辺 実	41	7.57	2	県新

M35	松原 憲治	36	7.56	2	県新
M30	加藤 正也	33	7.77	1	県新
男子200m					
M75	堀之内繁樹	75	35.09	1	県新
男子ハンマー投					
M70	瀬谷長三郎	70	31.02	1	県新
男子重量投					
M65	山田 博嗣	66	16.44	1	日本新
女子60m					
W50	長尾 典子	50	9.4	1	県新
女子三段跳び					
W45	木村 和代	49	8.2	1	県新
女子やり投					
W45	山田 美智	45	30.07	1	県新
女子100m					
W50	長尾 典子	50	15.26	1	県新
女子走幅跳					
W65	石野 すゑ	67	3.01	1	県新
女子円盤投					
W70	羽根田富美子	71	10.37	1	県新
女子ハンマー投					
W70	羽根田富美子	71	5.19	1	県新
W60	加藤 敦子	61	29.85	1	県新
女子重量投					
W70	羽根田富美子	71	5.13	1	県新
W60	加藤 敦子	61	10.57	1	県新
W45	山田 美智	45	9.82	1	県新

<第14回アジアマスターズ陸上競技選手権大会報告>

- 平成18年11月14日～19日 インド・バンガロール市
- ・平林 栄治(小牧市)
800m 優勝、1500m と 5000m 3位
 - ・杉山 茂生(新城市)
走高跳優勝、三段跳3位、走幅跳5位
 - ・加藤 敦子(豊川市) 砲丸投と円盤投優勝
- (佐野 昭二)

理事会等会議報告

○理事会5月28日(月)愛知県教育会館

1 協議事項

- ①平成19年度評議員会開催に関する資料について<平成18年度の一般概要報告・事業報告書の承認・収支決算書の承認、平成19年度の事業計画(案)・収支予算書(案)、愛知陸上競技会役員>
- ②平成19年度専門委員会の委員の委嘱について
- ③第26回レディース陸上競技会<大会要項・収支予算案>について
- ④平成19年度選手強化計画について
- ⑤その他

2 報告事項

- ①平成19年度要覧について
- ②各専門委員会活性化のために実施する年間計画について
- ③名古屋国際女子マラソン大会の反省事項について
- ④特別表彰者(日本記録樹立者)について
- ⑤その他

○定時評議員会 6月8日(金)愛知県教育会館

評議員220名中、177名出席(委任状含む)。出席率80.45%で定足数充足。

下記議案について協議の結果、満場一致で可決、承認された。

1 協議事項

- (1)平成 18 年度一般概要報告について
- (2)平成 18 年度事業報告書の承認について
- (3)平成 18 年度収支決算書の承認について
- (4)平成 19 年度事業計画 (案) について
- (5)平成 19 年度収支予算書 (案) について
- (6)愛知陸上競技協会役員の追加承認について
- (7)その他

平成 18 年度 愛知陸上競技協会収支決算書

(平成 18 年 4 月 1 日から平成 19 年 3 月 31 日まで)

収入総額	111,340,930 円
支出総額	91,239,139 円
差引残額	20,101,791 円 (次年度への繰越金)

○ 収入の部 単位：円

科目	予算額	決算額	差異
前年度繰越金	17,630,000	17,627,088	2,912
加盟金	14,780,000	15,065,400	△ 285,400
補助金	2,520,000	2,332,100	187,900
分担金	38,650,000	44,969,959	△ 6,319,959
協賛金	440,000	680,000	△ 240,000
交付金	7,060,000	7,289,780	△ 229,780
広告料	540,000	400,000	140,000
参加料	17,000,000	16,987,600	12,400
小学生友の会	550,000	546,500	3,500
雑収入	5,800,000	5,442,503	357,497
合計	104,970,000	111,340,930	△ 6,370,930

○ 支出の部 単位：円

科目	予算額	決算額	差異
運営費	18,980,000	16,599,290	2,380,710
事業費※	69,550,000	72,822,784	△ 3,272,784
負担金	1,830,000	1,817,065	12,935
予備費	14,610,000	0	14,610,000
小計	104,970,000	91,239,139	13,730,861
次年度繰越金	0	20,101,791	△ 20,101,791
合計	104,970,000	111,340,930	△ 6,370,930

※事業費の内訳 単位：円

科目	予算額	決算額	差異
競技会費	19,290,000	19,968,125	△ 678,125
共催事業費	29,470,000	30,138,258	△ 668,258
派遣費	9,350,000	10,573,111	△ 1,223,111
強化費	7,790,000	8,547,436	△ 757,436
普及費	3,650,000	3,595,854	54,146

平成 19・20 年度愛知陸上競技協会役員

- 会長 梅村 清弘
 副会長兼理事長 國分 一郎
 支部長 (副会長) 小椋 征弘 竹内 信雄 (会計兼任)
 山内 満 牧田 功
 副理事長 外山 幸男 青木 実 稲垣 裕
 常務理事 村瀬雄一郎 原川 豪 坂井田 醇三
 柴田 和秀 夏目 輝久 脇田 千鶴
 岡田 武彦 榊原 茂 外山 修

- 北村 肇
 理事 水野 隆夫 伊藤 明久 勝亦 紘一
 野村 弥寿男 藤原 照明 安田 純久
 小森 好治 杉山 裕二 石田美知恵
 樋高 勇二 安藤 好郎 大島 修
 秋田 明憲 佐野 昭二
 監事 萬谷 康幸 若松 良一 中尾 洋一
 鈴木 政男

栄章

おめでとうございます

体育表彰受賞

平成 18 年度愛知県体育協会体育表彰式が平成 19 年 3 月 16 日 (金)「ウイルあいち」で行なわれました。受賞された皆様には、心からお祝い申し上げます。

1 体育功労者

- (スポーツ振興) 兵道 政明 澤辺 泉二
 (選手育成) 森谷 晴彦 石川 重弥

2 特別優秀選手

- (団体等で連続 3 回以上優勝) 室伏 広治

3 優秀選手

- (国際大会で優秀な成績)
 室伏 広治 村上 智史 勝俣 章博
 (国民体育大会優勝)
 内藤 真人 加藤 聡 鈴木亜由子
 (日本選手権大会等優勝)
 内藤 真人 室伏 広治 室伏 由佳
 中田 有紀 勝俣 章博 岡部 寛之
 久保 博規 鈴木亜由子 深谷 美咲

(新垣 裕)

おくやみ

長年、本県の陸上競技発展のため多大のご尽力を頂戴してありがとうございました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)

逝去者氏名	逝去年月	支部名
斉藤 公男	19.3	東三河
石黒 銅次	19.3	名古屋
松下 達夫	19.4	東三河
中田 尚宏	19.4	東三河
木下 勝茂	19.6	名古屋

編集後記

○年誌資料・広報委員長として活躍になり、勇退された西垣完彦氏の後を引き受けての仕事に戸惑いつつ、委員の皆さま方の協力により、第 6 号の発行にこぎつけました。

○「キッズアスリート・プロジェクト」「クラブ紹介④」はいかがでしたか。広報誌に対してご寄稿、ご意見、ご要望がありましたらぜひお知らせください。

編集委員

- 占部 輝之 大久保真理子 大西 敏功 外山 修
 中尾 洋一 新美 準人 西垣 完彦 野口 一昭
 山本 三郎